

「地域と連携した遊休農地の解消」

(奈良県奈良市農業委員会)

担い手への
農地利用の
集積・集約化

遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

その他(農業
委員会の体
制強化等)

1 地区の特徴・状況、課題

- 本市は、奈良県の北部に位置し、春日大社より西が平坦地域、東が山間地域となっています。
- 総耕地面積は、2,149haであるが規模別では1.0ha以下の農家数が76%を占めており小規模農家が多いのが特徴であります。
- 市の半分以上が山であり、近年、鹿や猪また猿の獣害被害が深刻化しており、人口減少もあり山林・原野化している農地が増えている。小規模な経営耕地面積の農家が多くを占め、兼業農家の比率も高く、農業の担い手の高齢化後継者不足により、農地の遊休化が増えている。



2 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化の推進の取組と工夫)

- 遊休農地解消モデル農地を田原地域で選定。地元農業委員・推進委員が調査を行い、土地所有者と交渉。委員自らが、草刈・耕起・作付け・収穫。玉ねぎ・ジャガイモ及びヒマワリを植え、看板の設置を行った。今回は、近くの小中一貫校とコラボし、作付け・収穫を子供たちと行うとともに、カレーの具材に使用して給食時に子供たちと一緒に食事会を実施。
- 他の地域でのイベント時に農業相談・農業アンケートを行い、ジャガイモを配布し遊休農地解消の啓発を実施。
- 農業委員・推進委員の積極的な活動により人・農地プラン作成に向け動き出している。

3 活動(取組と工夫)の結果

- ・当該遊休農地は、所有者が耕作を復活。(1,290㎡)
- ・平成30年度に都祁の上深川町で人・農地プランにより集積が行われ、今年度も隣接町でも話合いが始まっている。